

# 学校図書館教育グループ研究会

グループ員：小木曾 笑子（池尻小学校） 小寺 真美子（稲野小学校）  
太田 裕子（緑丘小学校） 林 美幸（笹原小学校）  
緒方 麻美（花里小学校） 大石 愛弓（昆陽里小学校）  
上野 晴子（摂陽小学校） 大石 田鶴子（伊丹特別支援学校）  
担当指導主事：宮崎 大樹

キーワード：学校図書館 読書力 読書活動 ブックリスト ブックトーク

## 1 研究テーマ

「自ら本を手にする子どもを育てるために」

## 2 研究内容

### (1) ブックリスト研究

子どもたちにとって魅力的な本を学校図書館に置くことで、子どもたちと学校図書館をつなぎたいと考える。そのためには、教師自身が多くの本を知り、蔵書の選定にあたる必要がある。今年度は、公文の推薦図書を輪読し、交流を行った。

#### ① ブックリストの分析

公文式の教材として取り上げられている物語の多くは、『大きい一年生と小さな二年生』『あしながおじさん』など長きにわたって読み継がれているものが多い。ブックリストは、『先生、宿題おすれました』や『糸子の体重計』など今年度新しく推薦図書に入った本も数冊あり、毎年見直しがされていることが分かった。

#### ② グレード

ブックリストの本をグレード別に見ると、子どもたちが実際に図書館等で借りている本より、長編で、物語の構成が複雑な話が多いように感じた。特に高学年の『次郎物語』『宝島』『モモ』『ビルマの堅琴』等、図書館の蔵書として存在するが、ほとんど貸し出しがなく、動かない本が多数含まれており、これらをどのように子どもたちに紹介し、読書意欲をもたせるのか工夫する必要がある。

### (2) 実践報告「ブックトーク ～命～」

第6学年国語科「海の命」の導入に「命」をテーマにブックトークを行った実践報告があった。「命」をテーマにした物語を複数読み、立松和平の「命」シリーズに描かれた「命」感と比べて、自分が「命」をどのように考えるかをまとめる単元の導入として、ブックトークが行われた。立松和平の「命」シリーズを読み比べることで、作者の「命」感を読み取ることにとどまりがちな学習を、ブックトークによって、他の作者の作品にも広げて「命」について考え、自分の考えをまとめるという主体的な学習への手がかりとなった。



## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ① これまでは、教科書や市町村のブックリストについて研究を進めてきたが、今年度は公文式の「推薦図書ブックリスト」を取り上げたことで、本の選定の幅が広がった。
- ② 輪読した本の活用方法について意見交流し、実践に取り入れることができた。

### (2) 課題

- ① 子どもたちに読んでほしい本のリスト化。
- ② 「読書記録」についての検討。